

学校危機シミュレーション訓練(事故版)

1. 対象者: 教育委員会指導主事

2. 所要時間: 2時間

3. 演習の流れ

●ファシリテーターの動き ○参加者の動き

配分	演習内容	資料	備考
	資料の配付 ワークシート①	ワークシート①	
1分	○「事例の情報カード」を読んでもらう		
5分	＜質問タイム＞ ●「何か必要な情報はありますか？」と演習参加者に質問し、校長役の担当者が回答する。	質問タイム用情報	
5分	●学校は何をしていかなければなりませんか？付せんに対応を1件ずつ書き出し、さらに「当日」「翌日」「3日以降」に分けて下さい。 ○個人で書き出す		
5分	○グループになり、個人で考えたことを出し合う	ワークシート② (当日の対応)	
1分	●＜校長役の担当者が追加情報1を伝える＞	追加情報1	
5分	○新たな情報をもとに、グループで、対応を協議する		
5分	○グループでの協議内容を発表する		
1分	＜校長役の担当者が追加情報2を伝える＞	追加情報2	
10分	○グループで新たに付せんを書き足したりしながら、ワークシートを完成させる		
5分	意見交換		
休憩			
5分	●市町村教育委員会は、学校に対してどのような指導・支援ができるのでしょうか？	ワークシート①	
10分	○グループになり、個人で考えたことを出し合う		
10分	○グループでの協議内容を発表する		

10分	●「緊急対応の手引き（文部科学省）」を配付する ●コメント		
休憩（可能であれば）			
10分	●どうしたらこうした学校危機を予防できるか？具体的な方法をあげてください。	ワークシート①	
5分	○グループでの協議内容を発表する		
10分	●指導・助言		
10分	●ストレスマネジメントの実習 ●「支援者のための災害後のこころのケアハンドブック」の資料を配布する		

指導助言のポイント

- ・各自治体が策定したいじめ防止基本方針（特に重大事態への対応）を熟読し、その方針に沿った指導助言を行う。
- ・文部科学省「緊急対応の手引き」等も熟読しておく。

「事例の情報」カード

【第1報】

月曜日、5年生の5時間目のプールの授業で、最後の10分間は自由遊びの時間をとっていた。「先生！A君が浮いてこない！」と子どもたちの叫び声があがった。そこに1名の男子がプールの底に沈んでいた。すぐにプールから引き上げ、教師の一人が職員室に連絡した。養護教諭が保健室にあるAEDを持ってかけつけ、救急蘇生を開始すると同時に、救急車を要請したと教育委員会に連絡が入った。A男の保護者にも連絡したとのことであった。

【第2報】

14時半に救急車が到着し、養護教諭が同伴した。搬送後、すぐに教頭が搬送先の病院に向かった。子どもたちが動揺していたことから、学校長の判断で、委員会活動を中止し、全校生徒を15:45に下校させ、5年生に関しては保護者に一斉メールをだして、迎えに来れる保護者には児童を引き渡すようにすることであった。保護者が迎えに来れない児童は、教師が引率して集団下校させることになったと報告があった。

【第3報】

児童が下校した後に

- ・病院にいる教頭から校長に電話連絡があり、意識不明の状態 ICUにて治療を受けているとのことであった。
- ・下校までの間に、子どもたちが担任に口々に話していた内容から、A男くんが数人の男子とじゃんけんを負けたら、水の中に潜って、その上にみんなが乗るといったゲームをしていた。A男くんは何度も水の中に潜らされていたということであった。
- ・5年1組の児童が全員心配していた。A男とプールの中で一緒に遊んでいた男子児童のうち4名が泣いたり、気持ち悪さを訴えたため保健室で休ませた。この児童については保護者に迎えにきてもらい、直接担任から保護者に状況を伝えた。
- ・下校させた後、担任はA男の搬送先の病院に向かった。

【質問タイム】⇒「知りたい情報について質問できる時間」

校長役が口頭で説明

- ・事故が起きた時間 5時間目の授業 13:30～14:15 事故が起きたのは、14:10頃 救急車到着は 14:30
- ・学校規模 1学年3クラス(中規模校)全校生徒550人 5年生84名
- ・A男の所属クラス 5年1組:28名(男子15名 女子13名)
- ・被害児童の情報
5年1組 A男
男子児童。小柄。大人しいが、誰とでも分け隔てなく接することができる。兄弟はいない。健康状態は良好
母子家庭。母親は、教育活動に協力的。
- ・事故当時の状況
教師は3人プールサイドにいた。1組担任女性教諭 B(44歳、教職20年 学年主任)は具合の悪い児童の面倒を見ていた。2組男性教諭 C(33歳教職10年、心肺蘇生を行った)は、児童が使ったビート板を片付けていた。プールを監視していたのは、3組男性教諭 D(A男を引き上げた後、内線がなかったため職員室に行った)であった。男性教諭 Dは採用2年目。
- ・施設の状況
・AEDは保健室に常備
・プール=職員室間は100m
・プールの大きさ=25m × 6コース
・A男が沈んでいた地点のプールの深さは 1mであった。

ファシリテーターのポイント

上記の情報以外は伝えないようにする。参加者から質問されても「現在確認中」と回答する。

- ・実際の現場では、より多くの情報が入手できるはず。今回は演習なので十分な情報が得られない中、十分な時間がない中で決断しなければならない「重大事態」を経験することを目的とするため、この程度の情報で判断して、行動してほしいことを伝える。
- ・正解があるわけではない。今の状況の中で、どのように考え判断し、行動していくかが大事。そのための演習である。

上記の点も、併せて伝えるとよいでしょう。

【学校長による追加情報】

校長役:が口頭で説明

追加情報1

- ・当日 23 時に、病院にいた教頭から、A男が治療の甲斐なく亡くなったという連絡が入った。

追加情報2

次の日の8時に、病院の検視の結果、死亡原因は溺死。背中や首、肩などに押さえつけられたような跡が確認された。そのため、警察から、プールで上から数人で押さえつけられ、呼吸できなかったことによる溺死と疑い、捜査を始めることになった、と学校に連絡があった。

(配布物)

事例の情報カード

Name

【第1報】

月曜日、5年生の5時間目のプールの授業で、最後の10分間は自由遊びの時間をとっていた。「先生！A君が浮いてこない！」と子どもたちの叫び声があがった。そこに1名の男子がプールの底に沈んでいた。すぐにプールから引き上げ、教師の一人が職員室に連絡した。養護教諭が保健室にあるAEDを持ってかけつけ、救急蘇生を開始すると同時に、救急車を要請したと教育委員会に連絡が入った。A男の保護者にも連絡したとのことであった。

【第2報】

14時半に救急車が到着し、養護教諭が同伴した。搬送後、すぐに教頭が搬送先の病院に向かった。子どもたちが動揺していたことから、学校長の判断で、委員会活動を中止し、全校生徒を15:45に下校させ、5年生に関しては保護者に一斉メールをだして、迎えに来れる保護者には児童を引き渡すようにするとのことであった。保護者が迎えに来れない児童は、教師が引率して集団下校させることになったと報告があった。

【第3報】

児童が下校した後に

- ・病院にいる教頭から校長に電話連絡があり、意識不明の状態 ICU で治療を受けているとのことであった。
- ・下校までの間に、子どもたちが担任に口々に話していた内容から、A男くんが数人の男子とじゃんけんを負けたら、水の中に潜って、その上にみんなが乗るといったゲームをしていた。A男くんは何度も水の中に潜らされていたということであった。
- ・5年1組の児童が全員心配していた。A男とプールの中で一緒に遊んでいた男子児童のうち4名が泣いたり、気持ち悪さを訴えたため保健室で休ませた。この児童については保護者に迎えにきてもらい、直接担任から保護者に状況を伝えた。
- ・下校させた後、担任はA男の搬送先の病院に向かった。

【メモ】